

令和5年度 学校評価について

長崎県立長崎東中学校・高等学校

1 学校評価の目的

目標達成状況を点検・評価して成果や課題を明らかにすることにより、学校運営や教育活動の改善に活かし、本校の教育力を一層高める。また、教育計画とその実施・達成状況の評価結果を公開することにより、保護者や地域社会に信頼される開かれた学校づくりを一層推進する。

2 評価項目

学校の重点努力目標（12項目）に係る評価項目を設定し、あらかじめ設定した評価指標にもとづいて、その達成状況等を評価した。

3 分析及び今後の対応

（1）『質の高い学習指導の展開と生徒が自ら深く考え、ともに学びあう姿勢の育成』について

「授業や学習指導に満足している」が中高生徒・保護者とも90%前後の高評価であるが、生徒と保護者の満足度の相違については、中学校は生徒が保護者を0.6%上回り、高校は保護者が生徒を3.0%上回っている。WWLで培った探究活動による生徒の主体的な学びの進化に一層取り組むとともに、授業研究会や学校訪問等での意見交換をとおして、職員の授業改善をさらに進め、生徒一人ひとりを大切にした授業実践に取り組む。

（2）『国際社会で活躍できるグローバル人材の育成・郷土の将来を担う人材の育成』について

「国際社会で活躍できる人材の育成に努めている」と評価した保護者の割合が90%を超えている一方で、「グローバル人材として活躍したい」と思う生徒の割合は中学校が61.0%（昨年47.0%）、高校が54.7%（昨年50.4%）である。生徒の評価が昨年より高かったのは、WWLや海外修学旅行等への参加が意識づけになったと思われる。また、「ふるさとや地域社会等の課題」について考える中高生徒は昨年より低い評価（66.8% 昨年：70.1%）となっているので、県内企業説明会（高1）や探究フィールドワークなどをとおして、今後さらなるふるさとへの生徒の意識高揚とグローバル人材育成に向けた取組の充実を図る。

（3）『よき世を創る高い志や夢を持たせるキャリア教育の充実と進路希望の実現』について

「ICT機器を効果的に活用している」とする教職員が90%を超えている。また、「自ら授業改善や指導力の向上に努めている」とする教職員は97%を超え、学習指導において意欲的に取り組んでいることが伺える。しかしながら、生徒の授業・学習指導への満足度は、中学92.3%、高校89.8%となっていることから、今後は中高6年間での指導計画や主体的・対話的で深い学びの視点にたった学習指導をさらに進め、これまで以上に一人ひとりの進路保障に取り組む。

(4) 『多様な価値を尊重し、倫理観と品格を育む生徒指導の推進』について

中高生徒・保護者・職員とも「容儀・服装」において 90%を超える高い評価である。しかしながら「掃除」になると 85%前後、「挨拶」になると 67.7%と中高生徒・教職員ともに低くなる。また、スマホ利用について「午後 9 時以降にメール等を送らないようにしている」の項目においては、中学 51.0%、高校 28.9%となっており、さらに中高とも年々その数字が低くなっている。教師主体ではなく、生徒主体の校則や学外でのスマホ利用ルール変更、基本的な生活習慣や自己管理の指導が必要と感じている。

(5) 『リーダーシップとフォロースhipを育て、自主・自律の精神を高める生徒会活動の推進』について

新型コロナウイルス感染症が 5 類へ移行されたことで、多くの行事等が以前と同様に実施されている。生徒は「学校行事に積極的に参加している」の項目に 90%を超え、中高とも直近 3 年間で最も高い評価となった。それにともない「日頃から自主的・自律的な活動を心がけている」中高生徒が 85.7%であり、多くの生徒が意欲的な学校生活を送っている。今後も生徒会を中心に充実した活動ができるようにする。

(6) 『学習との両立を実現する部活動の推進』について

「学習と部活動の両立に努めている」の項目に中高生徒の結果が 80%を超え、概ね良好であるが、高校においては直近 3 年では一番低い数字となっている。学習と部活動のバランスに加え、スマホ等の使用による影響なども考えていく必要がある。また、保護者においては「学習と部活動の両立」が 89.4%、「満足度」は 86.4%となっていることから、保護者アンケートであがってきた部活動実施計画をホームページで早めに公開するなど、今後は満足度が低くなっている原因を解明し、さらなる部活動と学習の両立に向けた支援に努める。

(7) 『豊かな心と表現力を育てる図書・視聴覚教育の充実』について

「奉仕的な活動を行っている」の項目は、50%程度と低い評価だが、直近 3 年間に於いては一番高い数字となっている。様々な教育活動は、コロナ禍前の状態に戻っていくことから、今後この数字が高くなることを期待したい。また「朝の読書」については、中高生徒の結果が 84.9%であり、特に中学校では 90%という高い数字である。今後も図書研修部や図書委員会を中心とした自主的な読書の啓発に努める。

(8) 『一人ひとりを大切にする教育相談と心と体の健康づくりを推進する保健・安全指導の推進』について

「生徒一人ひとりを大切にしたい指導を行っている」と回答した保護者が 86.6%、「周囲や相手のことを思いやって生活できている」と回答した中高生徒が 94.7%であり、一定の評価を得ている。その生徒の評価については直近 3 年のうち一番高い数字であるが、「生徒一人ひとりを大切にしたい指導を行っている」と回答した保護者の数字は最も低くなっている (R4: 90.3% R3:90.1%)。今後も担任・学年団を中心とした家庭との連携に加え、相談部や保健部やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとも連携しながら生徒の情報共有を行い、生徒や家庭、そして下宿生の生活の支援や健全育成に努める。

(9) 『校務の効率化を目指した学校情報化と情報セキュリティ対策の推進』について

オンラインシステムやICTの活用が定着してきている。さらに生徒においては、一人一台の活用についても推進できている。教職員において、一層のICTの活用と情報セキュリティの研修に努める。

(10) 『施設・設備の充実と安全で安心できる教育環境の整備』について

予算の面で施設・設備の充実までいかないこともあるが、全職員において定期的な施設・設備チェックを行い、安全・安心な環境づくりを目指している。今後も学期末アンケートで気付きを把握し、事務部と連携して安全・安心な教育環境の整備を推進する。

(11) 『学校、保護者、同窓会、地域社会等との連携と広報活動の充実』について

「学校関係者との連携は円滑である」と回答した保護者は86.2%であり、昨年度より1.0%上昇している。感染防止対策が緩和されたこともあるので今後ますますの上昇を目指したい。また、HPの内容や更新（特に部活動計画掲載）に関するご要望もいただいているので改善を図る。

(12) 『教職員の服務規律の確保と働きやすい職場環境づくりの推進』について

年間を通じて服務規律に関する県教委の文書周知および確認や職員研修により資質の向上に努めた。また、今年度のストレスチェックの結果については、昨年度同様、職場の同僚性の高さが伺えたが、「量－裁量健康リスク（仕事の量的負担及び仕事のコントロール度）」は県平均を下回っている（悪い状態である）ので、仕事の平準化を目指す。そのための1つの対応として時間外電話自動対応等の検討を進める。今後も同僚性・協働性の向上に努め、年休を取得しやすい雰囲気や取組により働きやすい職場づくりを推進する。